

## 経営情報学会関西支部活動報告

関西支部副支部長 森田裕之（もりた ひろゆき）  
大阪府立大学

去る平成28年7月2日（土）に、経営情報学会関西支部平成28年度総会、ならびに第1回支部研究会を開催しました。場所は、大阪「ウメキタ」のグランフロント大阪北館7Fナレッジキャピタルの一面にあるナレッジサロンのセミナールーム（C/D）を利用し、15:30～15:45に支部総会を行い、16:00～17:00に研究会を実施しました。これに先立って、2016年度秋季全国研究発表大会が立命館大学大阪いばらきキャンパスで開催されることもありまして、15:00～15:30には関西支部の運営委員会を実施し、大会実行委員長の立命館大学 横田明紀先生から実施状況の説明を受け、運営委員のサポート体制について議論しました。

その後開催された第1回支部研究会の概要は、以下の通りでした。

### 講演者：

岩手県立大学 後藤裕介先生

### 講演タイトル：

エージェントベース・シミュレーションによるシステム設計と分析の実際

### 講演概要：

社会・組織における政策やマーケティング施策の検討、情報システムの設計・分析などにおいては、過去のデータ分析に加えて、シミュレーションによる意思決定支援が有効であると考えられる。本講演では、住民、消費者、従業員など人間の振る舞いを扱うことができるエージェントベース・シミュレーションによるシステム設計と分析について、基本的な導入から現在の研究動向・課題、研究例について紹介する。

後藤先生からは、非常にわかりやすく、エージェントベース・シミュレーションの基本的な内容から、最新の状況まで解説いただき、参加者の理解がとて深まりました。また、実用的な事例についてもご紹介いただき、エージェントベース・シミュ

レーションの可能性を強く感じることができました。質疑も活発に行われ、終了後もナレッジサロンにおいて、後藤先生の帰宅される時間ギリギリまで、ディスカッションを行いました。

第2回支部研究会は、平成28年9月3日（土）に、秋季全国研究発表大会に先立って、開催場所の見学も兼ね、立命館大学大阪いばらきキャンパス（OIC）・B棟4階・研究会室3にて、15:00～16:45の時間で開催いたしました。第2回支部研究会の概要は、以下の通りでした。

### 講演者：

金沢大学人間社会研究域経済学経営学系  
平田 透先生

### 講演タイトル：

「知識創造理論の系譜～哲学、主観、場～」

### 講演概要：

知識創造理論に関して、これまでの理論の流れを整理するとともに、理論のベースとなっている哲学的考え方、人間の持つ主観性の扱い、場の機能などに触れ、最近の検討課題である現象学的視点の導入などに関して、報告させていただきます。

通常は、質疑を含め1時間ぐらいで1件の講演をお願いしておりますが、今回は少し長めのご講演をお願いし、充実したお話と質疑を行うことができました。当日、平田先生からは、知識の重要性に対する認識の変遷から始まって、知識創造理論の形成、そして知識創造の要である“場”についてお話しいただくとともに、事例紹介として地域社会の事例や、前川製作所の事例などを紹介いただきながら、わかりやすく講演していただきました。研究会終了後は、平田先生に少しお時間をいただき、茨木駅前に場所を移して、懇親会を行いながら、さらにディスカッションを行いました。

本年度の関西支部の予定としては、年度内にあと1,2回、講師をお招きして、研究会を開催しようと

考えております。また年が明けて、2017年の2月か3月には、第12回になります学生論文発表会を開催する予定にしております。これらについては、メルマガ等で案内させていただく予定ですので、ふ

るってご参加いただくとともに、優秀な学生さんの論文についても、ご推薦いただきますようよろしくお願いいたします。